ツールの提供

- ユーザーが自由に情報のシェア、閲覧、他のユーザーとのコンタクトの範囲などを設定できる機能を提供

投稿の公開範囲を自由に設定

閲覧内容をブロック

投稿・写真・広告等に対する問題の報告

ツールの提供

- ユーザーからの報告への対応
  - ユーザーからの**報告に基づいてFacebookが対応を開始**。違反が確認された場合は直ちに削除する。（画像についてはPhotoDNA等によりプロアクティブに対応）
  - すべての報告は世界４箇所に設置された調査センターにおいて、法律・法執行・行政・人権・ビジネス・コミュニケーション等**幅広い専門家によって24時間365日体制、日本語を含む世界３０カ国の言語で対応**。
  - 報告内容の**重篤度に応じて優先順位を設けて対応**。特に**青少年保護**とテロリズム関連は特別な配慮で迅速に対応。
  - **自殺に関するコンテンツ**の報告を受けた場合は、まずは自動で相談窓口を案内し、自殺の発生を食い止める努力をすると同時に**迅速に専門家チームが対応**。

その他青少年に対する特別措置

- 青少年の投稿は**デフォルトで「友人に公開（≠一般公開）」に設定**。また投稿のシェア範囲に関する積極的な警告と教育の提供
- 青少年の個人情報（コンタクト情報・学校名・生年月日他）を**大人ユーザーの検索にかからないように措置**
- ともだち申請の際、**実際に知っている人とのみつながるべきである旨の警告**を表示
- 位置情報のシェアの機能は**デフォルトで「オフ」に設定。シェアされている場合は継続的に警告を表示。**
- 個別メッセージは**「友達の友達」までしか受け取れないよう制限**
（大人が不自然な数のメールを青少年に送り、相当の数削除や拒否されている状況が発生していることをシステムが感知した場合、適切性についてアクションを開始することもある）

「自殺防止フロー」の提供開始

Facebook 2016年6月 ／ Instagram 2016年10月

報告を受けると、本人がログインした時に特別な画面を表示

「自殺防止フロー」の提供開始

Facebook 2016年6月 ／ Instagram 2016年10月

メールで相談

Tipsを見る

専門家に直接相談する

教育・啓発

Facebookファミリーセーフティセンター

- 安全に利用するための情報･ツールを一元的に提供。
- 保護者、教育関係者、青少年本人、法的執行機関それぞれへ適切な情報を提供。

保護者へのアドバイスの例

- **対話を始めましょう**
  子供たちと継続的な対話を始めるために、保護者自身がソーシャルメディアに精通している必要はありません。学校や登校途中の安全について小さいときから注意を促してきたように、技術や安全について早いうちから頻繁に会話をかわしましょう。
  対話を始める際には、まずFacebookのようなサービスがなぜ子供たちにとって大切なのかを聞いてみましょう。また、自分のタイムライン設定を手伝ってもらって、全体の機能を理解しましょう。オンラインでどんな情報を共有すべきか、また共有すべきでないかについて、話し合いましょう。プライバシー設定について尋ね、一緒に定期的に安全を確保するようにしましょう。一定のルールを定め、それを守ってもらうことが重要です。
- **子供たちから学ぶ**
  現代の青少年はインターネットや携帯電話、メールとともに育ちました。多くの子供達にとって、オンラインとオフラインの区別はありません。新しい技術は生活の一部になっています。このため、大人がそれをくだらないとか時間の無駄などと言うことは、彼らの社会的交流を批判することになります。ソーシャルメディアについても、本当に熟知している方以外は、子供たちのほうがよく知っています。それでも大丈夫です。子供たちに使い方を説明してもらってください。
- **子供の立場を尊重**
  他の人に配慮する、という一番大切なルールを強調しましょう。これは、新しい技術の利用にも当てはまります。嫌がらせを受けた場合、どうすればよいか確認しておきましょう。オンラインで投稿した内容は誤解されやすいことを説明し、投稿する際には責任をもって、安全を考慮する必要があることを理解してもらいます。

https://www.facebook.com/safety